



## EFI ColorGuard

EFI ColorGuard により、Fiery Driven デバイスの正確かつ一貫したカラーの確認と維持がよりに簡単になります。

EFI ColorGuard で、特定のシステムの検証またはキャリブレーションを行う時期がきたら、オペレーターに対して自動的にプロンプトを表示する、カラー検証スケジュールまたはカラーキャリブレーションスケジュールを作成します。オペレーターはカラーをすばやく簡単に確認でき、結果はプロダクションマネージャーがレビューできるように自動的にアップロードされます。オペレーターは、キャリブレーションを行う際に通知を受けることができます。Fiery Driven デバイスで一貫したカラー品質を確保するために必要な、個別検証、複数のデバイスの比較、検証の経時的な傾向を詳しく確認できます。

各デバイスについて、EFI ColorGuard クラウドアプリケーションでカラー出力の検証またはキャリブレーションをスケジュールします。その後、EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションによって、検証が保留中であることがデバイスオペレーターに通知され、オペレーターはデスクトップアプリケーションのワークフローを通じて、カラー出力を確認またはキャリブレーションできるようになります。

検証ワークフローでは、デスクトップアプリケーションが、オペレーターがカラー出力の測定に使用する FieryMeasure を開きます。次に、Fiery Verify が FieryMeasure から測定値を受け取り、その結果の概要を表示します。デスクトップアプリケーションは検証結果をクラウドアプリケーションにアップロードし、レビューおよび分析することができます。

キャリブレーションワークフローでは、デスクトップアプリケーションによって Fiery キャリブレータが開き、オペレーターはこれを使用して Fiery Driven デバイスのカラー出力の再キャリブレーションを実行します。キャリブレータでは、キャリブレーションワークフローの一部として FieryMeasure が使用されます。

EFI ColorGuard は、以下のように構成されています。

- <https://colorguard.efi.com> の EFI ColorGuard クラウドアプリケーション - EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションで完了する検証とキャリブレーションのスケジュールを設定し、検証結果を追跡します。
- EFI ColorGuard デスクトップアプリケーション - カラー出力の検証を実行するタイミングをデバイスオペレーターに通知し、FieryMeasure を使用してカラー出力の印刷と測定を行い、検証結果を Fiery Verify に表示し、検証結果を EFI ColorGuard クラウドアプリケーションにアップロードします。

## サポート対象のブラウザーおよびオペレーティングシステム

EFI ColorGuard クラウドアプリケーションは、以下のブラウザーをサポートしています。EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションは、以下のオペレーティングシステムをサポートしています。

### ブラウザー

- Google Chrome
- Microsoft Edge
- Mozilla Firefox
- Safari 11 以降

## オペレーティングシステム

**メモ：**EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションは、x64 ビットのオペレーティングシステムのみをサポートしています。

- Mac OS X 10.13 以降
- Microsoft Office 7、8.1、10

## EFI ColorGuard でサポートされている測定器

EFI ColorGuard が印刷された出力を測定し、カラー検証を行うには計測器が必要です。EFI ColorGuard がサポートしている測定器は以下の通りです。

### サポートされている計測器

- EFI ES-3000
- EFI ES-2000
- EFI ES-6000
- EFI ES-1000
- X-Rite i1 iSis
- X-Rite i1iSis XL
- X-Rite i1iSis 2
- X-Rite i1iSis 2 XL
- X-Rite i1Pro
- X-Rite i1Pro 2
- X-Rite i1iO
- X-Rite i1iO 2
- Barbieri Spectropad (USB 接続のみ)
- Barbieri Spectro LFP
- Barbieri Spectro LFP qb
- Barbieri Spectro Swing
- Konica Minolta FD-5BT
- Konica Minolta FD-9
- 以下のインライン測定器：
  - Canon iPRC10000VP シリーズインライン
  - Xerox iGen インライン分光測色計
  - Konica Minolta IQ-501

## EFI ColorGuard にサインアップする

新しい EFI IQ アカウントを確認するには、有効なメールアドレスが必要です。

EFI IQ は、印刷サービスプロバイダー用の豊富なクラウドアプリケーション (EFI ColorGuard など) を含むクラウドプラットフォームです。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 サインアップをクリックします。
- 3 テキストボックスに情報を入力します。  
**メモ：**アスタリスク (\*) が付いたテキストボックスは必須です。
- 4 サインアップをクリックします。  
EFI IQ が手順 3 で入力したメールに確認メールを送信します。
- 5 メールアドレスを確認するには、確認メールを開いて指示に従います。  
**メモ：**確認メールが届かない場合は、スパムや迷惑メールフォルダを確認してください。
- 6 アカウントの管理をクリックします。
- 7 デバイスの追加を開始をクリックします。
- 8 EFI Cloud Connector の Mac または Windows 版をダウンロードします。
- 9 EFI Cloud Connector をインストールします。
- 10 EFI Cloud Connector を使用して印刷システムに接続します。

## EFI Cloud Connector

EFI Cloud Connector が印刷デバイスを EFI IQ サービスに接続します。

EFI IQ は、印刷サービスプロバイダーの豊富なクラウドアプリケーションを含むクラウドプラットフォームです。

EFI Cloud Connector では、印刷デバイスおよび EFI IQ サービスや Web アプリケーションへの接続の管理、登録、追跡が行えます。

## サポートデバイス

現在サポートされている印刷デバイスの一覧については、<http://resources.efi.com/IQ/supported-devices> を参照してください。

## プロキシ設定の構成

EFI Cloud Connector を使用して、ファイアウォールを介して EFI IQ に接続するようプロキシ設定を構成します。

EFI Cloud Connector と Fiery server は同じプロキシネットワークにある必要があります。

1 次のいずれかの場所から EFI Cloud Connector を起動します。

- Windows : スタート > Fiery > EFI Cloud Connector
- Mac OS : Go > アプリケーション > Fiery > EFI Cloud Connector

**メモ :** <http://localhost:11214> からブラウザで EFI Cloud Connector にアクセスできます。

2 プロキシ設定構成をクリックします。

3 プロキシ設定ウィンドウで、プロキシを使用を選択します。

4 プロキシセキュリティ方法として自動を選択します。

5 テキストフィールドに次の情報を指定します。

- プロキシサーバー名
- ポート
- プロキシユーザー名
- プロキシパスワード

6 テストをクリックします。

プロキシ設定のテストが成功すると、プロキシ設定ウィンドウにメッセージが表示されます。

7 保存をクリックします。

## Fiery server を登録する

EFI Cloud Connector を使用して、Fiery server を EFI IQ に接続します。

各 Fiery server はオンラインである必要があります。

EFI Cloud Connector は、接続されている Fiery servers と同時に実行しているシステム上にインストールする必要があります。

EFI Cloud Connector をホスティングしているシステムがオフの場合、EFI Cloud Connector で接続されている Fiery servers はオフラインと表示されます。

1 次のいずれかの場所から EFI Cloud Connector を起動します。

- Windows: 起動 > Fiery > EFI Cloud Connector
- Mac OS: 実行 > アプリケーション > Fiery > EFI Cloud Connector

**メモ :** <http://localhost:11214> からブラウザで EFI Cloud Connector にアクセスできます。

2 登録する Fiery server を選択するか、もしくはサーバーを追加をクリックして、デバイス名または IP アドレスを入力します。

3 デバイスの Fiery システム管理者パスワードを入力し、登録をクリックします。

4 EFI IQ のアカウント情報とパスワードを入力します。

5 サインインをクリックします。

## EFI Cloud Connector のアクティベート解除

EFI Cloud Connector のアクティベートを解除して、EFI IQ からリストに掲載されているデバイスを切断します。

**メモ：**切断したデバイスは、EFI IQ にはまだ登録されています。

- 1 次のいずれかの場所から EFI Cloud Connector を起動します。
  - Windows : スタート > Fiery > EFI Cloud Connector
  - Windows : EFI Cloud Connector デスクトップアイコン
  - Mac OS : 実行 > アプリケーション > Fiery > EFI Cloud Connector
- 2 ユーザー名をクリックします。

**メモ：**ユーザー名は、EFI IQ アカウントに登録されているメールアドレスです。
- 3 ECC のアクティベート解除をクリックします。  
EFI Cloud Connector が再起動します。
- 4 EFI Cloud Connector ウィンドウを閉じます。

## ライセンスデバイス

EFI ColorGuard を使用するには、使用する各デバイスでライセンスが必要です。




EFI ColorGuard では、アカウントでお使いいただける 30 日間の無料トライアルライセンスを提供しています。トライアルライセンスでは、トライアル期間中、サポートされているすべてのデバイスを接続することができます。

30 日間のトライアル期間が終了すると、各デバイスは個別にライセンスされている必要があります。

EFI ColorGuard のライセンスまたはライセンスの更新を購入するには、EFI の認定販売店にお問い合わせください。

## ライセンスを追加する

EFI ColorGuard ライセンスを関連するデバイスに追加して、機能へのフルアクセスを有効にします。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4  を表示するには、ライセンスを取得するデバイスのリストの上にカーソルを置きます。
- 5  をクリックします。

- 20桁のライセンスアクティベーションコード（LAC）を入力するか、トライアルライセンスをアクティベートをクリックしてデバイスを30日間トライアルに追加します。




**メモ：**トライアルライセンスを実行しているデバイスにLACを追加することで、トライアルライセンスをフルライセンスにアップグレードできます。

**警告** ライセンスを一度有効にすると、フルライセンスをデバイスから削除することはできません。正しいデバイスのライセンスを取得していることを確認してください。

- 次へをクリックします。
- 完了をクリックします。  
デバイスのライセンス状況が「ライセンスあり」に変更されます。

## 更新を確認する




ライセンスが更新された際に、ライセンス状況が期限切れになっているデバイスのEFI ColorGuardのライセンス状況をアップデートします。

- <https://colorguard.efi.com>を開きます。
- EFI IQ のログイン情報を使用してEFI ColorGuardにサインインします。
- をクリックします。
- を表示するには、更新を確認するデバイスのリストの上にカーソルを置きます。
- をクリックします。

**メモ：**これにより、期限切れのEFI ColorGuardライセンスは更新されません。  
更新を購入すると、デバイスのライセンス状況が「ライセンスあり」に変更されます。

## デバイスからトライアルライセンスを削除する

トライアルライセンスのみデバイスから削除することができます。  
フルライセンスはデバイスに恒久的に保持されます。

- <https://colorguard.efi.com>を開きます。
- EFI IQ のログイン情報を使用してEFI ColorGuardにサインインします。
- をクリックします。
- を表示するには、トライアルライセンスを削除するデバイスのリストの上にカーソルを置きます。
- をクリックします。

デバイスのライセンスステータスがライセンスなしに変わります。

## 検証プリセットを作成する

検証プリセットを作成して、スケジュールされたカラー検証に使用するカラーリファレンス、許容値設定、パッチセットを指定します。

以下を把握する必要があります。



- カラーリファレンスには、サンプル測定値を比較する対象カラーが含まれます。


**メモ：**GRACoL2013 および FOGRA51 などの業界標準の色空間は、ほとんどのカラーリファレンス選択肢を含む構成となっています。

- 許容値設定は、カラーリファレンスとサンプル測定の比較に使われる基準を定義します。
- パッチセットには、測定サンプルとして使用するために印刷されるカラーパッチが含まれています。

**メモ：**Idealliance Control Wedge 2013、Fogra メディア Wedge V3 および IT8.7/4 などの業界標準パッチセットは、ほとんどのパッチセット選択肢を含む構成となっています。

検証スケジュールを作成するには、検証プリセットが必要です。




- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 新しいプリセットを作成するか、既存のプリセットを複製します。
  - 新規検証プリセット作成をクリックして、新しいプリセットを作成します。または、
  - 既存の検証プリセットのリストの上にカーソルを置き、クリックして  既存のプリセットを複製します。
- 5 検証プリセットで、新しいプリセットの名前を入力します。
- 6 検証するカラープロダクションワークフローに適したカラーリファレンスを選択します。
 

**メモ：**選択内容が、カラーが検証されているジョブの印刷に使用するソースカラープロファイルと一致しているのが理想です。
- 7 検証するカラープロダクションワークフローに適した許容値設定を選択します。
  -  をクリックして、新しい許容値設定を作成します。
- 8 検証するカラープロダクションワークフローに適したパッチセットを選択します。
- 9 保存をクリックします。

## 検証プリセットの編集

EFI ColorGuard で検証プリセットを変更します。



- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。

- 3  をクリックします。
- 4 検証プリセットタブで、既存の検証プリセットリストにカーソルを合わせます。
- 5  をクリックします。
- 6 検証プリセットウィンドウで、検証プリセットフィールドに任意の名前を入力します。
- 7 検証するカラープロダクションワークフローに適したカラーリファレンスを選択します。  
**メモ：** 選択内容が、実行中のカラー検証ジョブの印刷に使用するソースカラープロファイルと一致しているのが理想です。
- 8 検証するカラープロダクションワークフローに適した許容値設定を選択します。
  -  をクリックして、新しい許容値設定を作成します。
- 9 検証するカラープロダクションワークフローに適したパッチセットを選択します。
- 10 保存をクリックします。

## 検証プリセットの削除

EFI ColorGuard から検証プリセットを削除します。

**メモ：** 現在、検証スケジュールで検証プリセットが使用されている場合、検証プリセットタブから検証プリセットを削除することはできません。検証スケジュールから検証プリセットを削除する必要があります。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 検証プリセットタブで、既存の検証プリセットリストにカーソルを合わせます。
- 5  をクリックして既存の検証プリセットを削除します。
- 6 プリセットを削除ダイアログボックスではいをクリックします。

## 許容値設定の作成/編集

許容値設定は、測定値をカラーリファレンスと比較する際の基準を定義します。制限を超える検証結果を警告または失敗と表示するかどうかを選択できます。



以下を含むカラーワークフローの許容バリエーション限度を把握します。

- $\Delta E$  式
- 通常の  $\Delta E$  限度
- 原色の  $\Delta E$  限度



- 色相差異の  $\Delta H$  限度
- トーン値の許容限度
- 彩度差異の  $\Delta Ch$  限度
- NPDC の  $\Delta L$  限度
- スポットカラー  $\Delta E$  限度

**メモ：**限度は、条件ごとに計算される許容値範囲を定義します

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 許容値セットタブで、既存の許容値設定リストにカーソルを合わせます。
- 5  をクリックします。
- 6 オプション: 許容値設定の名前を編集します。
- 7  $\Delta E$  式を選択します。
- 8 必要な許容値基準のチェックボックスを選択します。
- 9 選択した各基準の限度を入力します。
- 10 選択した各基準に対して、警告または失敗を選択して、測定値が指定限度を超えたことを示す方法を選択します。



**メモ：**

- 警告はあくまで参考情報であり、検証を合格させることができます。
- 失敗の場合は、検証全体が失敗となります。

- 11 保存をクリックします。

## 許容値設定の名前の変更

EFI ColorGuard の許容値設定名を変更します。



- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 許容値セットタブで、既存の許容値設定リストにカーソルを合わせます。
- 5  をクリックします。
- 6 許容値設定の名前を変更ウィンドウで、新しい名前フィールドに任意の名前を入力します。

- 7 OK をクリックします。

## 許容値設定の削除



EFI ColorGuard から許容値設定を削除します。

**メモ：**現在、検証プリセットでカスタム許容値設定が使用されている場合、許容値セットタブで許容値設定を削除することはできません。検証プリセットからカスタム許容値セットを削除する必要があります。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 許容値セットタブで、既存の許容値設定リストにカーソルを合わせます。
- 5  をクリックして既存の許容値設定を削除します。
- 6 許容値設定を削除ダイアログボックスで OK をクリックします。

## カラーリファレンスの名前の変更

EFI ColorGuard でカラーリファレンス名を変更します。



- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 カラーリファレンスタブで、既存のカラーリファレンスリストにカーソルを合わせます。
- 5  をクリックします。
- 6 カラーリファレンスの名前を変更ウィンドウで、新しい名前フィールドに任意の名前を入力します。
- 7 OK をクリックします。

## カラーリファレンスの削除

EFI ColorGuard からカスタムカラーリファレンスを削除します。



**メモ：**現在、カスタムカラーリファレンスが検証プリセットで使用されている場合、カラーリファレンスをカラーリファレンスタブから削除することはできません。検証プリセットからカスタムカラーリファレンスを削除する必要があります。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。

- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 カラーリファレンスタブで、既存のカラーリファレンスリストにカーソルを合わせます。
- 5  をクリックして既存のカラーリファレンスを削除します。
- 6 カラーリファレンスを削除ダイアログボックスで OK をクリックします。

## パッチセットの名前の変更



EFI ColorGuard でパッチセット名を変更します。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 パッチセットタブで、既存のパッチセットリストにカーソルを合わせます。
- 5  をクリックします。
- 6 パッチセットの名前を変更ウィンドウで、新しい名前フィールドに任意の名前を入力します。
- 7 OK をクリックします。

## パッチセットの削除

EFI ColorGuard からパッチセットを削除します。

**メモ：**現在、検証プリセットでカスタムパッチセットを使用している場合、パッチセットタブからパッチセットを削除することはできません。検証プリセットからカスタムパッチセットを削除する必要があります。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 パッチセットタブで、既存のパッチセットリストにカーソルを合わせます。
- 5  をクリックして既存のパッチセットを削除します。
- 6 パッチセットを削除ダイアログボックスで OK をクリックします。

## 検証スケジュールを作成する

EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションからカラーの確認を行うときに、プレスオペレーターに通知するための検証をスケジュールします。


以下を把握する必要があります。

- 使用する検証プリセット。

検証プリセットは、検証テストの基本色空間と許容値を指定します。お好みの CMYK リファレンス (FOGRA や GRACoL など) と許容値設定のプリセットを選択します。

- 使用するデバイスのジョブプロパティプリセット。

ジョブプロパティプリセットは、スケジュールされた検証に使用するジョブプロパティのグループを指定します。検証する生産ワークフローのジョブプロパティに一致するプリセットを選択します。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 新規スケジュール作成をクリックします。
- 5 検証を選択し、次へをクリックします。
- 6 名前ボックスに新しいスケジュールの名前を入力します。
- 7 検証スケジュールに含めるデバイスを選択します。
- 8 検証スケジュールに適したジョブのプロパティを選択します。
- 9 検証プリセットを選択を選択します。
- 10 次へをクリックします。
- 11 カラー検証を行う時間と曜日を選択します。
- 12 オプション: 通知で受信者を追加をクリックして、検証イベントの E メール通知 (検証の成功や失敗など) を送信します。  
  
**メモ:** どのメールアドレスでも通知を受け取ることができます。
- 13 完了をクリックします。


## キャリブレーションスケジュールを作成する

キャリブレーションのスケジュールを設定し、EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションからカラーキャリブレーションを行う時期をプレスオペレータに通知します。

以下を把握しておく必要があります。



使用するデバイスのジョブプロパティプリセット。

ジョブプロパティプリセットによって、予定のキャリブレーションに使用するジョブプロパティのグループが指定されます。キャリブレーションの対象となる生産ワークフローのジョブプロパティに一致するプリセットを選択します。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 新規スケジュール作成をクリックします。
- 5 再キャリブレーションを選択します。
- 6 名前ボックスに新しいスケジュールの名前を入力します。
- 7 キャリブレーションスケジュールに含めるデバイスを選択します。
- 8 キャリブレーションスケジュールに適したキャリブレーションセットを選択します。
- 9 次へをクリックします。
- 10 カラーキャリブレーションが発生する日時を設定します。
- 11 オプション: 通知で、キャリブレーションイベントの E メール通知を送信するには、受信者の追加をクリックします。  
  
**メモ:** どのメールアドレスでも通知を受け取ることができます。
- 12 完了をクリックします。

## スケジュールを編集する



少なくとも 1 件の検証またはキャリブレーションのスケジュールが設定されている必要があります。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 編集するスケジュールの上にカーソルを置き、 をクリックします。
- 5 必要に応じて、名前、デバイス、ジョブのプロパティまたは検証プリセットをアップデートします。
- 6 次へをクリックします。
- 7 必要に応じて時刻と曜日をアップデートします。
- 8 オプション: 通知で受信者を追加をクリックして、検証イベントの E メール通知（検証の成功や失敗など）を送信します。  
  
**メモ:** どのメールアドレスでも通知を受け取ることができます。
- 9 完了をクリックします。

## 検証を今すぐ要求する

スケジュールされた検証を検証するための即時要求を送信します。



最低 1 つの検証がスケジュールされている必要があります。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 要求するスケジュールされた検証の上にカーソルを置き、 をクリックします。

## キャリブレーションを要求する

キャリブレーション予定を実行するために即時要求を送信します。

あらかじめ、キャリブレーションのスケジュールを少なくとも 1 件は設定しておく必要があります。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 要求するキャリブレーション予定の上にカーソルを置き、 をクリックします。



## 検証履歴を表示する

EFI ColorGuard クラウドアプリケーションから、完了した検証の状況と結果を確認します。完了した検証の詳細な結果を表示します。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 オプション:  をクリックして、表示する検証結果の範囲を変更します。
- 5 個々の検証結果の上にカーソルを置き、 をクリックして詳細な検証結果を表示します。

## 測定値をリファレンスとして保存する

今後の検証時に比較ベンチマークとして使用できるように、検証を保存しておきます。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4  をクリックします。
- 5 カラーリファレンスの説明を入力し、次へをクリックします。  
測定値が保存されたかどうかを知らせるメッセージが表示されます。
- 6 完了をクリックします。



# EFI ColorGuard デスクトップアプリケーション

EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションを使用すると、オペレータはすばやくカラーを確認したり、検証結果をクラウドに自動的に報告したり、最近の検証履歴を確認できます。

EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションのワークフローは、次のプログラムで構成されています。


- EFI ColorGuard デスクトップアプリケーション - カラー出力を確認するタイミングをデバイスのオペレータに通知し、結果を EFI ColorGuard クラウドアプリケーションにアップロードします。
- FieryMeasure - カラー出力を測定します。
- Fiery Verify - 検証結果を表示します。

EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションは <https://colorguard.efi.com> から利用可能です。

## インストール

### EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションをダウンロードしてインストールする

アクティブなインターネット接続が必要です。

- 1 <https://colorguard.efi.com> を開きます。
- 2 EFI IQ のログイン情報を使用して EFI ColorGuard にサインインします。
- 3  をクリックします。
- 4 Mac または Windows のいずれかをクリックして、お使いのシステムに適したバージョンをダウンロードします。
- 5 EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションインストーラーを開いて実行します。
- 6 EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションを開きます。
- 7 EFI IQ の E メールとパスワードを使用して、EFI ColorGuard アカウントにログインします。

### Mac OS で EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションをアンインストールする

EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションをアンインストールして、EFI ColorGuard をこれ以上実行することのないシステムから削除します。

- 1 プログラムから Fiery Software Uninstaller を開きます。
- 2 EFI ColorGuard を選択します。



- 3 アンインストールをクリックします。
- 4 画面の指示に従います。

## Windows で EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションをアンインストールする

EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションをアンインストールして、カラー検証をこれ以上実行することのないシステムから削除します。

- 1 Windows のコントロールパネルを開きます。
- 2 プログラムのアンインストールをクリックします。
- 3 EFI ColorGuard を選択します。
- 4 アンインストールをクリックします。
- 5 画面の指示に従います。

## カラー出力を検証する


EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションのスケジュール通りに、デバイスのカラー出力を検証します。

アクティブなインターネット接続が必要です。

サポートされている測定器が必要です。

検証スケジュールにデバイスを含めます。

- 1 EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションを開きます。

- 2  をクリックします。

- 3 検証をクリックします。

EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションは FieryMeasure を使用して、検証のために印刷および測定します。

- 4 測定器リストから測定器を選択します。

測定モードや大きなパッチサイズなどの設定を行うには、測定器選択の右側の設定をクリックします。

- 5 チャートサイズリストから、[ジョブプロパティプリセット](#) (12 ページ) で指定された用紙に対応するチャートサイズを選択します。


- 6 オプション: ウォームアップページを指定します。

**メモ:** ウォームアップページは、プリンターが一定期間使用されていない場合に便利です。


- 7 印刷をクリックします。
- 8 デバイスからページを取得します。(ウォームアップページは廃棄します)。
- 9 画面の指示に従って、ページを測定します。

- 10 オプション:  をクリックすると、Fiery Verify の詳細な検証結果が表示されます。

11

オプション:  をクリックすると、検証結果が PDF として保存されます。

12

オプション:  をクリックすると、検証結果のラベルを PDF として作成できます。

## FieryMeasure

FieryMeasure は、測定器を使用してページに印刷されたカラーパッチの行を測定するユーティリティです。FieryMeasure を使用してパッチページを印刷することもできます。

FieryMeasure は EFI ES-2000 分光測色計などの複数の測定器をサポートしています。

FieryMeasure はカラーの測定データを必要とする他のアプリケーションから起動されます。

## 測定ページの測定

カラー測定器（分光測色計など）は、カラーパッチからの反射光を測定し、測定結果を数値で記憶します。パッチページを測定する手順は、計器によって異なります。

計器によっては自動キャリブレーション機能により計器が正しく機能しているかチェックされます。たとえば、計器が既存のカラーサンプルを正確に測定できるかどうかをチェックしてキャリブレーションを行います。自動キャリブレーションが使用できる場合は、ページを測定する前に計器のキャリブレーションを行う必要があります。

携帯型計器を使用する場合は、ページの位置設定とパッチの各行の測定に関する指示に従う必要があります。自動式計器の場合は、パッチの各行を測定する際に、人の手を介さずに次の行の測定に進みます。また、計器によっては自動でページの位置を設定します。

## 計器のキャリブレーションを行う

最初に測定器のキャリブレーションを行って、測定器の信頼性を高める必要があります。キャリブレーションが正しく行えないと測定に進めません。

- 1 画面の指示に従って操作を行い、次へをクリックします。

**メモ：**EFI ES-2000 または EFI ES-1000 分光光度計の場合は、ドックの白色タイルと計器のアーチャーの両方に汚れが付着していないことを確認します。EFI ES-2000 の場合は、白色タイルのカバーが開いている必要があります。

- 2 計器のキャリブレーションを正しく行えない場合は、キャンセルをクリックしてください。

## ES-2000 または ES-1000 で測定する

EFI ES-2000 または ES-1000 分光測色計を使用して、ページ上のカラーパッチを測定できます。

ES-2000 を測定方法に選んだ場合は、計器の設定を行うことができます。

- 測定モード - 測定の種類を選択できます。各ストリップを、1 回または 2 回のパスで測定できます。
  - M0 - 1 回のパス、UV を含む
  - M1 - 2 回のパス、D50、UV を含む
  - M2 - 2 回のパス、UV カット
- ルーラー使用 - EFI ES-2000 の下側の位置センサーがルーラー上のストライプを読み取って、EFI ES-2000 の位置を決定します。そのため、ルーラーとともに板を使用して、EFI ES-2000 をストリップに沿ってガイドする必要があります。2 回のパスでストリップの測定を行う場合は、ルーラーを使用する必要があります。
- パッチサイズ拡大 - このオプションを選択すると、大きいパッチが印刷されるので、低解像度のプリンターでも良好な測定結果が得られます。測定方法は、通常パッチでも拡大パッチでも違いはありません。このオプションを ES-1000 に使用することはできません。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。期待どおりの測定値が得られなかった場合は、ストリップを再測定できます。

- 1 滑らかで平らな面にパッチページを置きます。

パッチページ測定用の板とルーラーがある場合は、パッチページの位置を正しく設定します。

**メモ：**ES-2000 では、パッチページの印刷時にルーラーを使用するオプションを選択した場合、必ずルーラーを使用してください。

- 2 ES-2000/ES-1000 が測定中であることを示す画面が表示されたら、画面で指定されたストリップの上または下の白いスペースに ES-2000/ES-1000 を置きます。
- 3 ボタンを押しながら、パッチのストリップに沿って ES-2000/ES-1000 を一定の速度でゆっくりとスライドします。
- 4 ES-2000/ES-1000 が端の白いスペースに届いたら、ボタンを離します。
- 5 パッチのストリップの 1 つについて測定が成功したら、ES-2000/ES-1000 を次のストリップの先頭にある白いスペースに移動します。
- 6 残りのストリップについても同じ方法で測定し、ページ上のすべてのパッチの測定が完了するまで続けます。
- 7 残りのパッチページがある場合はそれらについても同じ方法で測定し、すべてのパッチページの測定が完了するまで続けます。
- 8 最後のページを測定したら、次へをクリックします。

## FD-5BT で測定する

コニカミノルタ製 FD-5BT 分光測色計を使用して、ページのカラーパッチを測定できます。

- FD-5BT をコンピューターに接続し、FD-5BT をオンにします。
- FD-5BT の詳細については、計器に付属の取扱説明書を参照してください。

FD-5BT を測定方法に選んだ場合は、計器に対して設定を行うことができます。

測定モード - 測定の種類を選択できます。各ストリップを、1 回または 2 回のパスで測定できます。

- M0 - 標準照明（白熱）、UV フィルターなし
- M1 - 補足照明（D50）UV フィルターなし
- M2 - 標準照明（白熱）、UV フィルター（UV カット）あり

**メモ：**M0、M1、M2 は、ISO 13655 に記載されている標準的測定条件です。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。期待どおりの測定値が得られなかった場合は、ストリップを再測定できます。

- 1 滑らかで平らな面にパッチページを置きます。  
より正確に測定するには、白色の普通紙を測定するページの下に数枚敷きます。
- 2 1 行目にストリップガイドを置き、FD-5BT をストリップガイドの上に配置します。  
計器の配置方法を確認するには、方法を表示をクリックします。
- 3 FD-5BT が測定中であることを示す画面が表示されたら、サンプルアパーチャの先端を、画面で指定されたストリップのどちらかの端にある白いスペースに配置します。
- 4 FD-5BT の側面のボタンを押しながら、パッチのストリップに沿って FD-5BT を一定の速度でゆっくりとスライドします。
- 5 FD-5BT が端の白いスペースに届いたら、ボタンを離します。
- 6 パッチのストリップの 1 つについて測定が成功したら、ストリップガイドと FD-5BT を画面で指定された次のストリップに移動します。
- 7 残りのストリップについても同じ方法で測定し、ページ上のすべてのパッチの測定が完了するまで続けます。
- 8 残りのパッチページがある場合はそれらについても同じ方法で測定し、すべてのパッチページの測定が完了するまで続けます。
- 9 最後のページを測定したら、次へをクリックします。

## Spectro Pad を使用して測定する

コードレスの Barbieri Spectro Pad 分光測色計を使用して、ページ上のカラーパッチを測定できます。

- Spectro Pad をお使いのコンピューターに接続し、計器の電源を入れます。
- 支持があった場合は、Spectro Pad をキャリブレートします。
- Spectro Pad の詳細は、計器に付属の説明書を参照してください。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。期待どおりの測定値が得られなかった場合は、その行を再測定できます。

- 1 滑らかで平らな面にパッチページを置きます。
- 2 Spectro Pad をページ上に配置し、赤いレーザーを使用して測定ヘッドを 1 行目の中央に合わせます。  
行は下部から始まり、上部に向かって測定されます。
- 3 測定ヘッドを、行のどちらかの端にある白いスペースへとスライドさせます。

- 4 Spectro Pad の画面に表示される速度インジケーターに従い、測定ヘッドをパッチの行に沿って適度なスピードでスライドさせます。  
 行の測定が完了すると、Spectro Pad はビープ音を鳴らし、メッセージを表示します。
- 5 パッチの行の 1 つについて測定が成功したら、Spectro Pad を画面で指示される次の行に移動します。
- 6 残りの行についても同じ方法で測定し、ページ上のすべてのパッチの測定が完了するまで続けます。
- 7 残りのパッチページがある場合はそれらについても同じ方法で測定し、すべてのパッチページの測定が完了するまで続けます。
- 8 最後のページを測定したら、次へをクリックします。

## iliO 2 または iliO を使用した測定

iliO 2/iliO によって ES-2000/ES-1000 が自動的にパッチの各行の上に移動し、測定できるようになります。画面上の画像は各行の測定時の状態を示しています。

パッチページを測定する前に、iliO 2 または iliO に接続されている ES-2000 または ES-1000 のキャリブレーションを行う必要があります。ES-2000/ES-1000 が iliO 2/iliO 上の白タイルにキャリブレートされます。白タイルが覆われていたり汚れていたりすると、キャリブレーションに失敗することがあります。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。

- 1 最初のパッチページを iliO 2/iliO 上に配置し、次へをクリックします。  
 ページの位置を iliO 2/iliO のアームの最も近い上端に合わせます。
- 2 画面の指示を実行し、「A」とマークされたパッチの上にクロスヘアを配置して、ES-2000/ES-1000 のボタンを押します。「B」および「C」とマークされたパッチについて手順を繰り返します。  
 画面上の画像はパッチ A、B、および C を探すのに便利です。
- 3 次へをクリックします。
- 4 iliO 2/iliO によるページ測定が終了したら、次へをクリックします。
- 5 残りのパッチページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定します。その際、ページの配置とパッチ A、B、および C の登録から始めます。
- 6 最後のページを測定したら、次へをクリックします。

## Spectro LFP を使用して測定する

Barbieri Spectro LFP は、自動的にページを測定アパーチャの下に配置し、ページを移動してパッチの各行を測定します。画面上の画像は各行の測定時の状態を示しています。

- Spectro LFP をお使いのコンピューターに接続し、計器の電源を入れます。
- Spectro LFP をキャリブレートします。
- Spectro LFP の詳細は、計器に付属の説明書を参照してください。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。

- 1 最初のパッチページをサンプルホルダー上に配置し、サンプルホルダーを Spectro LFP に挿入したら、次へをクリックします。  
画面の表示に従ってページを配置します。
- 2 画面の表示に従って「A」とマークされたパッチの上に十字線を配置し、次へをクリックするか「Enter」キーを押します。「B」および「C」とマークされたパッチについて手順を繰り返します。  
画面上の画像はパッチ A、B、および C を探すのに便利です。
- 3 次へをクリックします。
- 4 Spectro LFP によるページ測定が終了したら、次へをクリックします。
- 5 残りのパッチページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定します。その際、ページの配置とパッチ A、B、および C の登録から始めます。
- 6 最後のページを測定したら、次へをクリックします。

## iliSis を使用した測定

iliSis を使用した測定は自動的に行われます。ページが正常に測定された場合は、必要に応じて測定値を確認できます。

ページを測定する前に、測定器が正しく接続されていることを確認します。

- 1 最初の測定ページを、示されている方向で計器に配置し、ボタンを押します。
- 2 残りの測定ページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定し、すべてのページの測定が完了するまで続けます。
- 3 最後のページを測定したら、次へをクリックします。

## ES-6000 で測定する

ES-6000 分光測色計は、ページを自動的に読み込み、ローカルエリアネットワークを介してコンピューターに接続できる、XRGA 準拠の計器です。

ページ測定前に、ES-6000 およびコンピューターがローカルエリアネットワークの同じサブネットに接続されている必要があります。わからない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ES-6000 は X-Rite il iSis に類似していますが、ES-6000 は USB 接続ではなくローカルエリアネットワークを介してコンピューターに接続されます。ES-6000 は、ネットワーク上の複数のコンピューターのページを測定するのに使用できます。一意の ID がページに印刷されるため、ES-6000 は正しいコンピューターに測定値を送信できます。

ページが正常に測定された場合は、必要に応じて測定値を確認できます。

- 1 パッチページを挿入する前に、計器のボタンを押します。
- 2 ライトが点滅し始めたら、ページに示されている方向で最初の測定ページを計器に入れます。
- 3 残りの測定ページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定し、すべてのページの測定が完了するまで続けます。
- 4 最後のページを測定したら、次へをクリックします。

## FD-9 で測定する

Konica Minolta FD-9 を使用した測定は自動的に行われます。ページが正常に測定された場合は、必要に応じて測定値を確認できます。

ページ測定前に、FD-9 をコンピューターに接続し、FD-9 をオンにします。FD-9 の詳細については、計器に付属の取扱説明書を参照してください。

- 1 計器の用紙ガイドを測定ページの幅に設定します。
- 2 ページが引き込まれるまで、ページの先端を FD-9 に置きます。  
FD-9 計器がオプションのシートフィーダーユニットに接続されている場合は、計器の OK ボタンをクリックして測定を開始します。
- 3 残りの測定ページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定し、すべてのページの測定が完了するまで続けます。
- 4 最後のページを測定したら、次へをクリックします。

## Spectro Swing を使用して測定する

Barbieri Spectro Swing は自動で測定を行います。ページが正常に測定された場合は、必要に応じて測定値を確認できます。

ページを測定する前に、Spectro Swing が正しく接続されていることを確認します。

- 1 最初の測定ページを計器内に配置します。
- 2 残りの測定ページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定し、すべてのページの測定が完了するまで続けます。
- 3 最後のページを測定したら、次へをクリックします。

## インライン計器で測定する

プリンターに取り付けられているインライン計器を使用した測定は自動的に行われます。ページが正常に測定された場合は、必要に応じて測定値を確認できます。

EFI ColorGuard は次のインライン測定器をサポートしています。

- Canon iPRC10000VP シリーズインライン
- Xerox iGen 150 インライン分光測色計
- Konica Minolta IQ-501

ページを測定する前に、インライン計器をプリンターに取り付けておく必要があります。インライン計器の詳細については、計器に付属の取扱説明書を参照してください。

## ページ（計器）を測定する

測定ページを測定する前に、測定器が正しく接続されていることを確認します。計器のキャリブレーションを行います（指示があった場合）。

**メモ：**パッチはイエローパッチまたはブラックパッチの行で区切られることにより、どちらの方向でも計器が測定されるようにすることができます。測定データにはイエローパッチとブラックパッチは含まれません。

- 1 最初の測定ページを計器内または計器上に配置します。
- 2 ページの登録が必要な場合は、画面の指示に従ってページ位置を登録します。
- 3 計器でパッチの手動スキャンが必要な場合は、画面の指示に従って各ストリップをスキャンします。
- 4 ページが正常に測定された場合は、必要に応じて測定値を確認できます。  
期待通りの測定値が得られなかった場合、計器で手動スキャンがサポートされていればストリップを再測定できます。
- 5 残りのページの測定を続行します。
- 6 最後のページを測定したら、次へをクリックします。

## 測定エラー

カラーパッチの測定時には、1組のルールを基に測定値の有効性が確認されます。これらのルールは、測定値のエラーを検出してストリップをいずれかの方向にスキャンできるように設計されています。

無効な測定値が検出された場合は、測定を繰り返すことができます。

不正な測定値は、次の原因によって発生する可能性があります。

- 間違ったストリップを測定している（そのストリップが正しいパッチページ上にある場合を含む）。
- 間違ったページを測定している。
- 間違ったカラーを生成する印刷の不具合がページに含まれている。
- 予期しないカラーの原因となる条件がプリンターや用紙に含まれている。

## ページの測定後、測定値を確認する

操作を続行する前に、ページの測定値を確認できます。画面上に、選択されたストリップの拡大表示と、その横にストリップがあります。マウスポインターをパッチの上に移動すると、測定値が表示されます。

- 1 画面に表示されているパッチレイアウトで、確認したいストリップをクリックします。
- 2 拡大表示で、確認したいパッチの上にマウスポインターを移動します。

## ストリップの再測定

携帯型の測定器でストリップを再測定できます。画面の拡大表示に、選択したストリップとその次のストリップが表示されます。

- 1 画面のパッチレイアウトで、再測定したいストリップをクリックします。
- 2 拡大表示で、測定したいストリップの番号または文字をクリックします。



- 3 確認メッセージが表示されたら、前と同じようにストリップを測定します。
- 4 次へをクリックして次のページに移動するか、同じ手順を続行します。

## カラー出力の再キャリブレーション


EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションから設定したスケジュールに従って、デバイスのカラー出力の再キャリブレーションを行います。

アクティブなインターネット接続が必要です。

サポートされている測定器が必要です。

キャリブレーションスケジュールにそのデバイスを含めます。

- 1 EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションを開きます。

- 2  をクリックします。

- 3 キャリブレーションをクリックします。

EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションでは、キャリブレーションのために、キャリブレーションと FieryMeasure を使用して印刷と測定を行います。

- 4 キャリブレーション名を選択して、次へをクリックします。

- 5 測定方法リストから測定器を選択します。

測定モードや大きなパッチサイズなどの設定を行うには、測定方法選択の右側の設定をクリックします。

- 6 パッチセットを選択します。

- 7 実行するキャリブレーションに対応する用紙ソースを選択し、次へをクリックします。  
選択したパッチセットが印刷されます。

- 8 デバイスからページを取得します。(ウォームアップページは廃棄します)。

- 9 画面上の指示に従って、パッチセットを測定します。

- 10 次へをクリックします。

- 11 オプション: 再キャリブレーション結果を確認するには、テストページをクリックします。

- 12 適用して閉じるをクリックします。

## EFI ColorGuard の Fiery Verify

Fiery Verify は、EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションの検証結果を表示します。

結果は、EFI ColorGuard でスケジュールされている検証に関連する検証プリセットから算出されます。

検証プリセットは、スケジュールされているカラー検証に使用するカラーリファレンス、許容値設定、およびパッチセットを指定します。

Fiery Verify では、比較のために検証プリセットおよび許容値設定を編集できます。

**メモ:** Fiery Verify で編集した検証プリセットおよび許容値設定は、EFI ColorGuard にアップロードされません。

Fiery Verify には EFI ColorGuard ライセンスまたは Fiery Color Profiler Suite ライセンスが必要です。

Fiery Verify は次の携帯型測定器をサポートしています。

- EFI ES-2000
- X-Rite i1Pro 2

## サンプル測定値を保存する

検証処理の一部として行われた測定サンプルを .it8 ファイルとして保存します。

- 1 Fiery Verify で、比較 > サンプルを保存。
- 2 ファイルを保存する場所に移動します。
- 3 ファイル名を入力し、保存をクリックします。

## 参照用としてサンプルを保存する

検証プリセットエディターでカラーリファレンスとして使用するために、測定サンプルを保存します。

- 1 Fiery Verify で、比較 > 参照用としてサンプルを保存するをクリックします。
- 2 ファイル名を入力し、保存をクリックします。

## リファレンスをロード

リファレンスファイルを Fiery Verify にロードし、測定サンプルと比較します。

**メモ：**Fiery Verify では、.icc、.txt および .it8 ファイル拡張子がサポートされています。

**メモ：**リファレンスファイルには、有効な CGATS データが含まれている必要があります。

**メモ：**.icc ファイルを使用する場合は、IT8.7/4 のデフォルトセットが使用されます。

- 1 Fiery Verify で、比較 > リファレンスをロード。
- 2 ファイルを選択し、開くをクリックします。

## サンプルをロードする

サンプルファイルを Fiery Verify にロードし、リファレンスと比較します。

**メモ：**Fiery Verify では、.icc、.txt および .it8 ファイル拡張子がサポートされています。

**メモ：**サンプルファイルには、有効な CGATS データが含まれている必要があります。

**メモ：**.icc ファイルを使用する場合は、IT8.7/4 のデフォルトセットが使用されます。

- 1 Fiery Verify で、比較 > サンプルをロード。

- 2 ファイルを選択し、開くをクリックします。

## パッチ測定

測定を実行して、印刷されたカラーパッチをすばやく比較します。

サポートされている携帯型測定器が接続されていることを確認します。

- 1 オプション: まず、ファイル > 新しい比較をクリックして、新しい比較を開始します。
- 2 オプション: 必要に応じて、リファレンスファイルまたはサンプルファイルをロードします。
- 3 まず、比較 > パッチ測定を開始。
- 4 画面のキャリブレーション手順に従って、測定器のキャリブレーションを行い、キャリブレーションをクリックします。
- 5 リファレンスまたはサンプルの下をクリックして、カラー測定を表示する場所を選択します。
- 6 測定するカラーパッチの上に測定器を配置します。
- 7 測定器を使用してカラーパッチをスキャンします。  
Fiery Verify により、新しい測定値とリファレンス列またはサンプル列の内容が自動的に比較され、その結果が表示されます。
- 8 必要なパッチがすべて測定されたら、測定を停止をクリックします。

## リファレンスを測定

Fiery Verify でリファレンスとして使用するパッチページを測定します。

印刷済みのパッチページが必要です。

**メモ:** Fiery Verify により測定値が it8 ファイルとして保存されます。

- 1 Fiery Verify で、比較 > リファレンスを測定。  
Fiery Verify では FieryMeasure を使用してサンプルの測定を行います。
- 2 測定器リストから測定器を選択します。  
測定モードや大きなパッチサイズなどの設定を行うには、測定器選択の右側の設定をクリックします。
- 3 測定リストから、測定の用途を選択します。
- 4 パッチセットリストから、実施する測定に適したパッチセットを選択します。
- 5 チャートサイズリストで、ワークフローに適した用紙（印刷機に投入する）に対応するチャートサイズを選択します。
- 6 測定をクリックします。
- 7 画面の指示に従って、測定器のキャリブレーションを行います。
- 8 画面の指示に従って、ページを測定します。

## サンプルを測定

Fiery Verify のサンプルファイルとして使用するパッチページを測定します。


印刷済みのパッチページが必要です。

**メモ：** Fiery Verify により測定値が.it8 ファイルとして保存されます。

- 1 Fiery Verify で、以下をクリックします。 **比較> サンプルの測定**。  
Fiery Verify では FieryMeasure を使用してサンプルの測定を行います。
- 2 測定器リストから測定器を選択します。  
測定モードや大きなパッチサイズなどの設定を行うには、測定器選択の右側の**設定**をクリックします。
- 3 測定リストから、測定の用途を選択します。
- 4 パッチセットリストから、実施する測定に適したパッチセットを選択します。
- 5 チャートサイズリストで、ワークフローに適した用紙（印刷機に投入する）に対応するチャートサイズを選択します。
- 6 測定をクリックします。
- 7 画面の指示に従って、測定器のキャリブレーションを行います。
- 8 画面の指示に従って、ページを測定します。


## レポートを保存する

検証比較の詳細を PDF ファイルとして保存します。

- 1 Fiery Verify で
  - ・ 、ファイル>PDF にエクスポート>レポートをクリックするか、
  - ・  をクリックします。
- 2 レポートを保存する場所に移動します。
- 3 保存をクリックします。







## 検証ラベルを作成する

検証比較の詳細を PDF ファイルのラベルとして保存します。

- 1  
Fiery Verify で検証が完了したら、 をクリックします。  
ラベルが PDF で作成され、デフォルトの PDF ビューアで開かれます。
- 2 必要に応じて PDF ファイルの印刷や保存を行います。

## 最近の検証履歴を表示する

EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションで、最近完了した検証の状況と結果を確認します。最近完了した検証の結果の詳細レポートを表示またはダウンロードします。

- 1 ColorGuard デスクトップアプリケーションを開きます。
- 2  をクリックします。
- 3 表示する検証結果で  をクリックします。  
結果、プリンタープリセット、検証プリセット、および許容値設定が新しいウィンドウに表示されます。
- 4 オプション:  をクリックすると、Fiery Verify の検証結果の詳細が表示されます。
- 5 オプション:  をクリックすると、検証結果の詳細の PDF をダウンロードできます。
- 6 オプション:  をクリックすると、検証結果の詳細のラベルを作成できます。
- 7 オプション:  をクリックすると再キャリブレーションを実行できます。



## 再検証

Fiery Driven デバイスを再キャリブレートした後にカラーを再検証します。

アクティブなインターネット接続が必要です。


サポートされている測定器が必要です。


デバイスを再キャリブレートします。


- 1 EFI ColorGuard デスクトップアプリケーションを開きます。
- 2  をクリックします。
- 3 再検証する検証結果で  をクリックします。
- 4 測定器リストから測定器を選択します。  
測定モードや大きなパッチサイズなどの測定器の設定を行うには、設定をクリックします。
- 5 チャートサイズリストから、**ジョブプロパティプリセット** (12 ページ) で指定された用紙に対応するチャートサイズを選択します。
- 6 オプション: ウォームアップページを指定します。  
**メモ:** ウォームアップページは、プリンターが一定期間使用されていない場合に便利です。
- 7 印刷をクリックします。
- 8 デバイスからページを取得します。(ウォームアップページは廃棄します)。

9 画面の指示に従って、ページを測定します。

10 オプション:  をクリックすると、Fiery Verify の詳細な検証結果が表示されます。

11 オプション:  をクリックすると、詳細な検証結果が PDF としてダウンロードされます。

12 オプション:  をクリックすると、検証結果の詳細のラベルを作成できます。

13 オプション:  をクリックすると再キャリブレーションを実行できます。

## 失敗した検証

デバイスの検証に失敗した場合は、以下を実行してください。

- デバイスを再キャリブレートします。
- 正しい用紙がロードされていることを確認します。
- デバイスの製造元により指定されたインク/トナーを使用します。
- カラーリファレンスと許容値設定に固有の出力プロファイルを作成します。
- 印刷会社の温度や湿度などの環境要因が、デバイスの製造元により指定された範囲内にあることを確認します。
- デバイスを点検します。